

## マフラーを装着するにあたっての確認ポイント

### 【装着前の確認】

- ➡ 車種はあっているか
  - 💡 弊社の適合リストに掲載されている車種以外は、装着確認や認定・認証機関への届け出が出来ておりません。
- 型式はあっているか
  - 💡 自動車検査証を確認し、車両の型式をご確認ください。  
特に、排ガス記号(GH-, CBA- など)の記号も確認してください。
- ➡ エンジン型式はあっているか
  - 💡 エンジン型式を確認してください。  
自動車検査証に記載の原動機型式名だけでは詳細がわかりませんので、不明な場合は自動車メーカー等に自動車検査証の記載事項から確認してください。
- ➡ 適合が確認されているグレードか
  - 💡 グレードにより、エンジンが異なったり、エアロパーツが装着されたモデルがあります。  
自動車メーカー等に自動車検査証の記載事項から確認してください。  
弊社の適合リストに掲載されている車種(グレード)以外は、装着確認や認定・認証機関への届け出が出来ておりません。
- ➡ 適合年式はあっているか
  - 💡 車種や型式などが同一でも、年式によって適合しない車両があります。  
各種の規制対象が車両によりそれぞれ異なる為、適合年式を確認してください。
- ➡ エアロパーツなどは装着されていないか
  - 💡 グレードによるエアロパーツ装着以外に、純正オプション品として装着されたエアロパーツや社外品のエアロパーツなどが装着されている場合、マフラーの出口がエアロパーツに干渉してしまう場合があります。マフラーの適合リストに記載された事項以外は、確認が取れておりません。  
未確認のエアロパーツ装着車にマフラーを装着される際は、専門店などに相談してください。  
マフラーがエアロパーツに干渉した状態での走行は、干渉部位が損傷したりマフラーが損傷して事故の原因となります。

### 【装着時の確認】

- ➡ 他の装着パーツが既に取り付けられていないか
  - 💡 他社製マフラーからの交換
    - 接続部分の形状は同じか  
弊社の製品では、純正ガスケットをそのまま使用する場合があります。  
異なるガスケットが装着されている場合、排気漏れの原因となったり取り付け位置がずれてしまう事があります。
    - 吊りゴムが交換されていないか  
吊りゴムは、マフラーを吊り下げるためだけでなく、自動車の走行による振動やエンジンからの振動、マフラー自体の熱による伸びや共振騒音などの様々な振動を吸収する役目もしています。  
また、位置を強制的に変更するタイプの吊りゴムでは、正規な位置とは異なる部位にマフラーを配するため、吊りゴム以外にも負担がかかり、その負担となる部位の破損に繋がるケースもあります。  
これらのことから、純正の吊りゴムもしくは製品に付属されている吊りゴム(弊社オプション品含む)以外はお薦めいたしません。
  - 💡 フロントパイプ等の交換  
弊社の製品は、純正のフロントパイプや触媒および弊社製フロントパイプや触媒にあわせて製作されています。他社製商品を併用される場合、接続方法(接続部の形状など)や取りまわしの位置などが異なる場合もあり、正規な取り付け位置とならないケースもあります。
- ➡ 下回りの確認
  - 💡 過去に下回りを打っていた場合  
小さな損傷でも排気管が曲がっている場合があります。その場合、そのまま装着するとマフラーの出口がずれてしまったり、パイプ類が車体に干渉する可能性があります。  
変形している部品を交換、または専門店などに相談し修理をおこなってください。
- ➡ 干渉対策
  - 💡 上記に該当しなくても、位置ずれが生じる場合があります。  
テールパイプなどの位置が気になる場合は、マフラーを仮組みした状態でテールパイプが正しい位置にくるようにおさえながら接続部(フランジ部など)を締め付けると調整できます。(2名以上で作業)  
それでも干渉したり他の部品に近い場合は、純正側(フロントパイプや触媒など)の接続部分を緩め、同様の方法で調整しながら締め付けてください。
- ➡ 足回りの部品の交換などの確認
  - 💡 足回りの部品を交換することにより、マフラーのレイアウトによっては、干渉や最低地上高が確保出来ない場合があります。  
弊社の適合リストに掲載されている最低地上高やレイアウトは標準車を元としておりますので、それらを参考に、他の交換部品を確認してください。